



埼玉・群馬の健康と医療を支える 未来医療人の育成 Newsletter

第2号

■ 発行 埼玉医科大学／群馬大学 Saitama Medical University / GUNMA UNIVERSITY

本プロジェクトで大切にしていること vol.2

群馬大学大学院医学系研究科長 事業推進プロジェクトリーダー 小湊 慶彦

■ 県境地域の医療情勢に重点をおいた教育を行います

埼玉県と群馬県は利根川を挟んで隣接しており、古くから教育、医療、福祉をはじめとする様々な生活圏をともに構成してきました。本事業を通じて、医師の地域偏在や診療科偏在、高度医療の浸透、地域構造の変化等の課題に対応するべく、両県の教育拠点が連携を密にする機会をいただきましたこと、改めて感謝申し上げます。

群馬県の医療情勢として、医師総数の不足、医師の地域偏在、医師の診療科偏在の3つが問題になっています。一方、埼玉県は、医師偏在指標が全国の中でも低く、県境地域から群馬県への患者流出も多いことから、この地域の医療需給に関する問題は、両県の医療提供体制を考える上でも重要です。

本連携事業では、新たな教育プログラムを開発し、県境地域に精通した「地域を良く理解する」、「地域への愛着を持つ」、「課題の発見と解決に対する意欲を持つ」医師の育成に努めます。本学では、医学部医学科以外にも全学部の学生が学ぶ「はじめて学ぶ地域医療」と、地域医療卒業生を含む医学部医学生が参加できる「利根川プログラム」の2つの教育プログラムを開講し、学生の「地域医療マインド」を育みたいと考えています。

群馬県内の連携機関として、群馬県、群馬県医師会、また、地域医療実習等で医学生に対して日頃から御指導いただいている連携医療機関のうち、伊勢崎市民病院、桐生厚生総合病院、太田記念病院、公立館林厚生病院、公立藤岡総合病院、公立富岡総合病院の6つの県境地域の医療機関に御協力いただきます。

両大学が連携し、県境地域の医療情勢に重点をおいた教育を行ってまいりますので、よろしくごお願い申し上げます。



新たな教育プログラムの開講

群馬大学医学部附属病院地域医療研究・教育センター講師、事業推進委員会委員 羽鳥 麗子

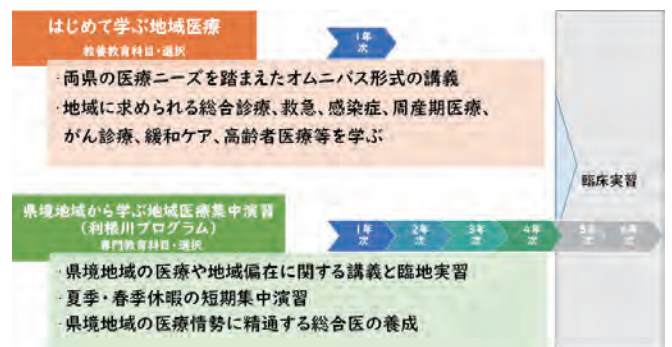
■ 「早くから学ぶ・地域で学ぶ」教育に努めます

群馬大学では、教養教育科目として「はじめて学ぶ地域医療」、専門教育科目として県境地域から学ぶ地域医療集中演習「利根川プログラム」を新たに開講し、県境地域の医療情勢に重点をおいた教育を目指します。

まず、「はじめて学ぶ地域医療」では、全学部1年次を対象とした選択科目で、地域における医療の実際と医療行政に関する知識を身につけ、医師不足地域の課題及びその解決方法について考えることができる人材の育成を目指します。両県の医療ニーズを踏まえて、総合診療、救急、感染症、周産期医療、がん診療、緩和ケア、高齢者医療等について、オムニバス形式の講義で学ぶとともに、埼玉医科大学の学生と遠隔で合同講義や合同発表を行います。

「利根川プログラム」では、関連医療機関で実習を通じて、地域や住民の視点に立ち、県境地域で抱える医療的課題について学習します。医学部医学科全学年を対象に、地域医療を通じて、社会貢献する向上心及び自身の専門性を地域に還元する意欲を有し、県境の医療情勢に精通するジェネラリストの育成を目指します。

群馬大学と埼玉医科大学では、2つの教育プログラムの中で、映像教材を共有し、合同演習・合同発表など、遠隔で共同学習を行います。これらの教育では、将来、地域医療の中で必要となる領域について、「早くから学ぶ・地域で学ぶ」ことを大切に、地域への愛着・地域医療マインドの醸成に努めてまいります。



最優秀賞

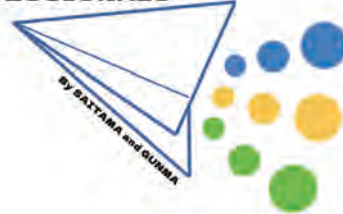
群馬大学 医学部 3 年生
中嶋 理名さん



優秀賞

埼玉医科大学 医学部 4 年生
岡村 明日香さん

EDUCATION
FOR
MEDICAL
PROFESSIONALS



ロゴの公募に対し両大学の学生、教職員より 12 点の応募がありました。最優秀賞は、群馬大学医学部 3 年生の中嶋理名さん。優秀賞には、埼玉医科大学医学部 4 年生の岡村明日香さんの作品が選ばれました。若い学生の希望を叶える取り組みとすべく、両大学で連携推進します。ご応募いただきました皆様、ご協力ありがとうございました。お二人のロゴに込めた想いは、当事業のホームページに掲載しています。ぜひご覧ください。

令和 4 年度試行プログラム

プログラム 2 : CCstep1 総合診療内科感染症実習

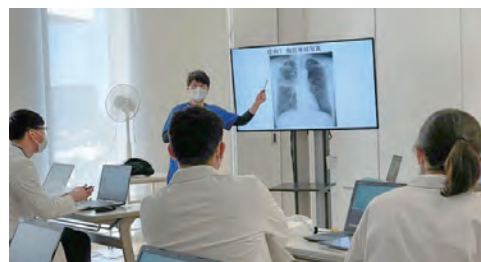
埼玉医科大学病院 臨床検査医学 教授 前田 卓哉

感染症をキーワードとし、「遠隔医療」と「適切な検体検査」をテーマとした試行プログラムとして開始しました。総合診療内科と臨床検査医学の教員 3～4 名が指導者となり、独自教材を用いて学生 7～8 名のグループを対象にシナリオ・ベースで進行します。まずは 1 名の学生が遠隔診察室の患者役となり、医師役学生が医療面接を行いながら、全員で臨床推論を深めます。ここでは、聴取した情報をその場で整理し、あらゆる臨床推論を行いながら、鑑別診断に必要な情報をさらに聞き出す工夫が必要です。

医療面接のあとは、想起した感染症に必要な感染対策を考慮し、身体診察、画像検査、血液検査、そして病原体検査を構築します。本実習では、シミュレータを用いた検体採取、実際の体外診断薬を用いた抗原定性検査を行うほか、喀痰検査では実検体の観察、およびデジタルスライドを用いて学生自らが検体の質を評価し、観察に適した部位を判断のうえ病原体を推定します。最後は電子カルテの記載法を学び、診療録の記載を行い実習は終了です。どこまで、感染症診断にせまれるか？本実施に向け、学生からのアンケートをもとに、シナリオ・教材のブラッシュアップに取り組みます。

参加した学生のコメント

- ▶臨床現場での流れと同じように、医療面接から身体診察、検査を体験することができた。
- ▶自分の基本的な知識不足が多かったため、その勉強はもっとしていかなければいけないと感じた。
- ▶実際の検体を見ることができたこと、取った検体をきちんと確認することの重要性を学べたことが良かった。
- ▶発熱、咽頭痛、咳嗽とくるとついコロナを連想してしまいコロナだろうかと決めつけてしまいがちだが、そこでしっかりと鑑別をする必要性を感じる事ができた。



埼玉・群馬の健康と医療を支える未来医療人の育成 Newsletter 第 2 号

編集・発行 : 埼玉・群馬の健康と医療を支える未来医療人の育成事業事務局
住所 : 〒 350-0495 埼玉県入間郡毛呂山町毛呂本郷 38
TEL : 049-276-1109
発行日 : 2023 年 03 月
E-mail : sgmirai-smu@saitama-med.ac.jp
URL : https://sgmirai.jp

無断転載禁止

